



大河小だより

小川町立大河小学校
令和8年9月3日 第17号
文責 校長 宮澤 忍

～子供の豊かな成長を支え、地域とともに歩み続ける学校～

〒355-0327 比企郡小川町腰越209 Tel. 0493-72-0068

【学校教育目標】 ○ 自ら学ぶ子（知） ○ やさしい子（徳） ○ たくましい子（体）

【年間生活目標】 「あいさつを広げよう」 「健康な生活を心がけよう」

【9月の生活目標】 「きそく正しい 生活をしよう」

2学期始業式での校長講話

2学期の始業式では、校長の話として、特に次の3つのことをがんばってもらいたいと話しました。

1 困っている友達がいたら、優しい言葉をかけて相談にのってほしい

- ・相手の心に寄り添い、安心感をあたえるため

2 引き続き、あいさつができる人になってほしい

- ・来校者や、登下校を見守ってくれる防犯パトロール隊の方などに進んであいさつをする

3 目標を立てて、それに向かって努力してほしい

- ・工夫と継続をして、やり方を見直しながら地道にやり抜くため

今日（9月1日）から2学期のスタートです。みんなで力を合わせて楽しいクラス・すてきな大河小学校にしていきましょう。

話は変わりますが、今日、9月1日は「防災の日」です。夏休み中に大きな地震や大雨により、つらい思いをしている人が日本中の中にはいます。自分事として考えて、大きな地震があった時や、大雨の時にどのような行動をするか、今日帰ったらお家の人と確認してください。



命を守る行動の大切さ

この夏は、熊本県や関東地方でも大きな地震が発生しました。また、千葉県や福井県・石川県・富山県で豪雨による大きな被害が出ました。そして、小川町にもレベル4土砂災害危険警報が発令され、不安な思いをされた方も多くいらっしゃることと思います。もしも、被災された親族の方がいらっしゃいましたら、心よりお見舞い申し上げます。

いつ起こるかわからない自然災害に備え、日ごろから命を守る行動について考えることの大切さを、改めて感じています。



保護者・地域の皆様 温かい見守り活動 ありがとうございます

長い夏休みが終わりました。現在のところ、本校の子供たちに関する大きな事故や怪我などの連絡はなく、教職員一同、まずはホッと胸をなでおろしているところです。このことは、ご家庭や地域での温かい見守りのおかげです。心より感謝申し上げます。

生活リズムを取り戻そう

保健だよりや、始業式後に9月の生活目標を児童に伝えた「規則正しい生活」ですが、この1、2週間で生活リズムの確立をお願いします。

規則正しい生活の基本ポイント

- 早寝・早起き**：毎日同じ時間に寝て、同じ時間（登校の60分前など）に起きる
- 朝食をしっかり食べる**：1日3食を規則正しくとり、体内時計をリセットする
- メディアの制限**：寝る前1時間はスマートフォンやゲームなどの強い光を避ける
- 適度な運動**：日中に体を動かし、生活リズムにメリハリをつける

P T A 環境整備作業にご協力いただきありがとうございます

8月22日（土）にP T A主催による学校内の環境整備作業を行いました。たくさんの保護者の方や子供たちもお手伝いに参加してくれました。

校舎内では教室やトイレの清掃など、屋外では草刈りや側溝内の清掃などをしていただきました。作業しながらの交流も生まれ、にぎやかに作業をしていただくことができました。おかげさまで学校内や校庭が大変きれいになりました。ご参加いただいた皆様、大変ありがとうございました。2学期が気持ちのよい環境でスタートを切ることができました。

子供と、そして親と一緒に生涯で過ごせる時間

この夏休み中に研修を受け、講師の方から次の言葉を聞きました。

「子供と一緒に生涯で過ごせる時間は、母親が生涯で約7年6ヶ月、父親が約3年4ヶ月」とされています。時間にすると母親は、約65,700時間。父親は、約29,200時間です。そして、子供の成長により、時間も経過していきます。例えば、幼稚園入学までには約18%、小学校卒業時には約55%、高校卒業時には約73%が過ぎ去ります。

そして、親からの愛情をたっぷりと受け止めている子は、社会性や自立心が育まれます。「子供にベタベタしすぎると、わがままになって親離れしなくなるのでは？」と心配する声も聞かれます。しかし、実際には親からの愛情を確信している子供は、自己肯定感が高まり、何事にも自信をもって取り組むことができるようになるようです。

この親子のスキンシップから「オキシトシン」というホルモンが分泌され、心が満たされて自尊心や人への信頼感が増す効果も期待できます。スキンシップにもしも慣れていないときには、例えば「ちょちょくすぐり合う」「ずいずいずっころばし」のような手遊び歌で楽しむなど、自然にスキンシップできる遊びはたくさんあります。みなさんがやりやすい方法でお子さまとの触れ合いの時間を楽しんでみてはいかがでしょうか。

一方、**「親と一緒に過ごせる残り時間」**についても言及していました。自分の親と顔を合わせて過ごせる時間があとどれくらい残っているかですが、親と離れて暮らしている人の場合、1年のうちお盆に3日、お正月に3日など、親と会う平均日数を6日と設定します。しかし、実家に帰っても、丸一日一緒に過ごすことはあまり考えられません。総務省統計局の社会生活基本調査によると、実家の親と顔を合わせるのは1日平均4時間程度です。6日間に4時間をかけると＝24時間。つまり、**1年間で親と過ごす時間は24時間、1日分**です。

「自分と子ども」「自分と親」、どちらも一緒に過ごせる時間には限りがあります。「いつでも言えるし、まだいいや」と後回しにせず愛情を伝えていきたいです。

出典「こどもまなび☆ラボ」より